

2015.1.25 年間第三主日

四人の漁師を弟子にする

マルコによる福音 1:14-20

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

説教

聖書は神のことばが記された書物です。その中でイエスが何を言ったのかということとはとても重要です。では聖書の中でのイエスの第一声はなにか？きょうの福音ではこう記されます。

1:15 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

先週の福音（ヨハネ）での第一声はこうでした。

1:38 イエスは振り返り、彼らに従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われた。

マタイ、ルカにもそれぞれイエスの第一声はあります。（注1）これらの記述からもわかるように福音書によって第一声まちまちで、今となってはほんとうのところはわかりません。しかしがっかりすることはありません、すべての福音書に共通な点があります。それはガリラヤでイエス宣教の第一声が発せられている点です。

現代の選挙でも党首が発する第一声は注目されますが、それとは別にどこで、どの町で最初の演説をするのか、したか、はマスコミ報道で重視されます。演説の中身も重要ですが、場所も大切だということでしょう。たとえば、新宿で最初に演説するのか、それとも北海道や沖縄で演説するのかでは同じ演説でも意味が違ってきます。東京を選ぶのならばやはり東京が大事、東京が一番となるでしょうが、沖縄、それも辺野古で最初に演説すれば演説内容もさることながら、そこで、その場所で第一声を発したメッセージ、その内実は際立ってきます。

ヨハネは荒野（でもエルサレムの近らしい）で「悔い改めよ。天の国は近づいた」と宣教しました。そして、イエスはガリラヤで宣教を開始しました。

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。1:14-15

（比べてみると、イエスと洗礼者のいっている内容は一緒なんです）

ガリラヤとは何か、またガリラヤにどんな意味があるのか？

聖書を見るといろいろ書いてあります。ガリラヤはイエスのふるさとだった、ガリラヤで最初の弟子たちを選んだ。故郷ナザレでは受け入れられなかった。隣接するサマリアにいたり、ガリラヤから更に北の現代でいうシリア地方にも足を伸ばしている（イスラエルだけでなく異国にも足を運んでいる）いろいろな解答はあります。

はっきりしているのはイエスはエルサレムではなくガリラヤで第一声を発し、宣教を開始されたということです。神殿のある都、エルサレムではなく異教徒の住むところ、辺境の地ガリラヤで最初に福音を説かれました。

わたしたちは聖書をとおしてイエスがエルサレムで処刑されたこと、そして復活されたことを知っています。エルサレムの神殿はイエスが処刑された40年後には崩壊したことを歴史上の出来事として知っています。そしていま現在でもエルサレムの神殿は再興されることなく、その痕跡が残るだけだと

いうことも知っています。またキリスト教徒がエルサレムの奪還（神殿の再建？）を試みた十字軍の歴史を過去の誤りとして断罪しています。繰り返になりますが、イエスはその地上の生涯をガリラヤで初めエルサレムで終えられました。

さて、きょうの福音ではイエスの弟子たちの初めの出来事が記されています。彼らは漁師であったが、イエスに従いました。なんですぐにイエスについていったのか、その理由はきょうの福音には記されていません。では、ほかのところに書いてあるかというところルカ福音書にはいわゆる大漁の奇跡の出来事がペトロたち漁師がイエスに従うきっかけになった、というようなことが書いてあります。でもヨハネ福音書ではそれは復活のイエスが弟子たちに現れた出来事として記され、ペトロたちはイエスの十字架後、自分たちだけの福音宣教、教会設立へと書き立てるきっかけになったとも受け止められます。きょうの第一朗読はヨナ書の3章ですが、1-2章には、ヨナは神の召しに逆らって逃げ出し、クジラに食べられて神に助け出されるという一幕が記録されています。それからあとヨナは神の命に従いニネベに行き、神のことばを述べ伝えニネベの人々を回心へと導きました。旧約預言者にもいろいろな召しのスタイルがあることがわかります。

イエスを見出す弟子は先週読んだヨハネ福音書に記されています。

「来なさい。そうすれば分かる」とあってイエスに従うアンデレです。

イエスが見出す弟子は（召しだす弟子）きょうの福音に記されています。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と呼び出されたシモン（ペトロ）とアンデレです。

弟子たちはなぜイエスに従ったか、それは最初の弟子たち自身の問題です。わたしはイエスに従おうとしたのはいつか、それはなぜか、そして今はどうなのか、従っているのか、これらの答えはじぶん自身に照らして思い巡らせ

る、きょうの福音をとおしてどうぞこれを受け止めてください。そしてそれをガリラヤではじめたイエスにも思いをめぐらせてください。

注1

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

マタイ 4:17

そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。ルカ 4:21
